

令和8年度防府市人権学習推進市民会議 【総会の部】

日時：令和8年7月22日（水）

午後1時30分から午後2時まで

会場：笑顔満開通り アスピラート 3階音楽ホール



令和8年7月22日(水)午後1時30分から笑顔満開通りアスピラート3階音楽ホールにて令和8年度防府市人権学習推進市民会議総会・講演会が開催されました。

【総会・講演会次第】

- 1 開会のことば
- 2 防府市人権学習推進市民会議会長 挨拶
- 3 来賓祝辞
- 4 総会の部
- 5 講演の部
- 6 閉会のことば



令和8年度防府市人権学習推進市民会議

【講演の部】

日時：令和8年7月22日（水）

午後2時から午後3時30分まで

会場：笑顔満開通り アスピラート 3階音楽ホール

【子どもの問題】

演題：わたしのヤングケアラー～障がいのある両親の元に生まれて～

講師：美容師／株式会社セレンディピティ代表取締役／

子ども食堂「まほうの食堂」主宰

高橋 美江 さん

ヤングケアラーとして過ごしてきた経験のリアルな声を聞くことができ、このテーマを考えていくよいきっかけになったと思います。
(参加者アンケートより)

講師 高橋 美江さんのお話より

高橋さんのヤングケアラー①

ヤングケアラーとは本来、大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。ヤングケアラーといっても10人いれば10通り。高橋さんは生まれつき耳が不自由な弱視の父と病気で右目を失った母の間に一人っ子として生まれる。高橋さんが両親の目で、耳で、注意で支えとなっていた。

講師 高橋 美江さんのお話より

高橋さんのヤングケアラー②

何がしんどかったかと考えると、家族の存在が不幸なのではなく、他の家族のことや生い立ちを「不幸」と決めつける他人の概念が辛いこと。当時も今も「普通ということ」を望んでいる。誰にもマウント(優位)をとられたくないし、誰の援助や支援を受けなくても一人で気ままに健康で好きなことをして生きて、幸せに暮らすこと。

講師 高橋 美江さんのお話より

大人になって…

孤独でしんどかった自分を救ってやれるのは、「幸せに生きている今の私」である。自分のヤングケアラーだった経験、耐え難い過去、それらは全て今の自分を作り出し、唯一無二の存在にしてくれたとも感じている。

講師 高橋 美江さんのお話より

支援について①

「問題」と名前が付いた途端、差別が生まれ、偏見が生まれ、触りにくい、デリケートな部分だと感じ、余計に知ってもらいにくい問題になってしまうのではないかと思う。そんな思いから、伝えたいこと

- ・「解決してやろう」と思わないでください。
- ・ご自身の価値観(正しさ)を疑ってください。そしてどうか押し付けしないでください。
- ・人間関係を形成してから、それぞれの支援を一緒に導き出してください。

講師 高橋 美江さんのお話より

支援について②

当事者は話すことをとても怖く感じている。支援とは、「自立のサポート」
支援とはその人がどうしたら幸せに過ごせるのか、その人にとっての幸せ
とは何かを一緒に導き出すことが支援の形。「自立のサポート」である。

触られたくないこと、触れてほしくないことを無理に引きはがそうとしない
いで、相手のペースを待つこと。

すぐに行動するのではなく、①知って②考えて③話して④行動してが大切。

講師 高橋 美江さんのお話より

助けを受けるということ

施しを受けることは、プライドや世間体を気にするがあまり実は難しいことである。何かを提供する側、受ける側がいてこそ成立する。助けてもらう立場になるとわかる。「助けてもらった人が人を助けられる」、助けてもらうには、受ける技術や覚悟がいることに気づく。

市民セミナー参加者アンケートより

- 自身の「価値観」を疑ってください。このメッセージに心を打たれました。相手の「ものさし」を知ること。そこから始めたいと思います。
- ヤングケアラーの問題というより、一つの家庭問題として理解した。気付くことは難しいが、同じように孤独な環境にいる人の依存先となれる場所をつくることがその人の考えや感じ方を変えるきっかけのひとつになるのかなと思った。
- 困っている人の支援のあり方、いろいろ考えさせられた。「知って、考えて、話して、動く」教育現場でも必要な考え方、在り方だと感じた。

《感謝の言葉の部分は省略させて頂き、原文どおり掲載しています。》